

目的： 本研究は発育発達に適応した効果的な健康教育の方法を確立するために、幼児の生活習慣、食習慣、遊びを通して幼児の食行動と健康に影響を及ぼす要因について検討したので報告する。

対象および方法： 1.福岡市の民間保育園 129ヶ園に通園する3～6歳の幼児 11,562名を対象として、保育園を通して保護者に回答を依頼した。有効回収率は60.7%であった。分析対象は、7,013名(3歳児 985名、4歳児 2,257名、5歳児 2,355名、6歳児 1,416名)とした。2.調査時期は1998年10月～11月である。3.調査内容は、健康・身体状況、生活習慣・環境、遊び、食習慣・食行動について33要因とした。4.統計学的解析については、群間の差の検定には unpaired t-test、 χ^2 -test を行い、また要因分析には数量化I類、II類を用いた。

結果および考察： 1.年齢による要因は、数量化I類分析から遊びの種類、お手伝いの内容、料理の経験の順にレンジが大であり、年齢が生活習慣を通して食行動に関与していることが明らかになった。2.性別による要因については数量化II類分析から、料理への興味の偏相関係数が最も大であった。これらのことから、年齢を十分に考慮した上で、幼児の日常の遊びの中に食習慣の基礎づくりが可能となるメディアの工夫とその導入の必要性が示唆された。